

1年生の段ボール迷路が完成した。1学期から保護者の方の協力を得て、大きめの段ボールをたくさん集めた。製作活動が始まったのは、3学期になってから▼段ボールを切る専用のこぎりとクラフトテープを手に、時間を見つけては、3階にかけ上げる。活動する教室が、3階の東の端ということもあり、意外と他の学年の子には見られにくい▼2年生のみが、(ぼくたちもやったよね。)(たのしかったよね。)とうれしそうに振り返る。今年で2年目の取り組みなのだ▼設計図はない。子どもたちは小さなチームを作って、思い思いに製作を始めた。「迷路」を作ることはわかっているけど、どうやって作ればいいのかわからないから、製作は、迷走する。つないで、こわれて、またつないでを繰り返した▼もめごとやトラブルは、日常茶飯事だったという。しかし、このプロセスこそが学び。完成したのは、つい先週。作った迷路で遊んだら壊れて、また作り直す。▼自分たちがいっぱい遊んだら、次は他の学年の招待。役割を分担して、ルール説明の練習をして、招待する計画も自分たちで進めたそうだ▼【自分たちで考えながら、一生懸命になる姿に私の心は「ほかほか、ぎゅーっ」となりました。入学したころには、考えられなかったような挑戦をしてみんなを、誇らしく思います。】これまでのプロセスを振り返り、担任が、たよりに綴った言葉。